

貧しい人々に目を向けて

横山 源之助

1871 (明治4) 年2月21日—1915 (大正4) 年6月3日



弱者の立場に立った記者

ひんこん 貧困問題を掘り下げた

『日本之下層社会』の著者

独学で富山県中学に合格

新川郡魚津町 (現魚津市) の漁師の家に生まれ、町内で左官業を営む横山家の養子となりました。小学校卒業

後、近所のしょうゆ問屋で住み込みで働きながら自分で勉強し、富山県中学校 (現県立富山高校) へ進学しました。当時、職人の子どもが中学校へ進むことはとても珍しいことでした。

優れた社会問題研究書

源之助は中学校を1年で中退して上京し、政治家を目指して法律を学びました。東京で弁護士試験に挑戦しましたが、失敗を繰り返しました。このころに出会った小説家の二葉亭四迷*から強い影響を受け、貧困問題に関心をもつようになりました。

源之助は1894 (明治27) 年、新聞社の記者になり、労働者など貧し

い人々の様子を記事にし、評判を呼びました。群馬、栃木、富山など地方にも足を運び、日清戦争後の不景気で地方の産業が衰えていく様子や貧富の差が広がっている現実を調査し、「貧しい人」の立場に立って伝えました。これらの記事を基に1899 (明治32) 年に『日本之下層社会』を刊行しました。この本は明治時代の社会問題に光を当てた書物として今でも多くの人に読まれています。

夢や志をかなえたポイント

- ・勉強に打ちこめることを幸せだと考える
- ・世の中を自分の目で見て知る
- ・「弱い人」の味方という立場を貫く



『日本之下層社会』の初版本表紙 (魚津市立図書館蔵)

*二葉亭四迷【ふたばていしめい】

1887 (明治20) 年に小説『浮雲』を発表。話し言葉に近い文章 (言文一致体) で書かれ、近代小説の先駆けとなりました。